

モデルプログラム C-1 学校の受け入れ体制ー地域・学校の支援体制の多様性ー

ねらい	複数の自治体、教育委員会、学校の外国人児童生徒等の受け入れ・支援体制について知り、それぞれの地域の状況や教育・支援の違いについて理解するとともに、自身の周囲の地域・学校の特性に合わせた教育・支援の仕方について考える。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	C 学校の受け入れ体制
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 転編入の流れを知る。（15分） ・外国人児童生徒等の受入れの流れ（C） 2. 経験者の話を聞き、自治体・校内の日本語支援体制について理解する。（15分） ・校内の指導体制（C） ・市町村行政・教育委員会による支援事業（C） 3. 外国人児童生徒等の受入れ時の対応を知る。（25分） ・外国人児童生徒等の受入れの流れ（C） ・校内の指導体制（C） ・保護者の教育参加（L）	1. 当該自治体（地域）の外国人児童生徒の受入れの流れと手続きを知る。 1) 外国籍住民の自治体への転入の流れを知る。 ・自治体による手続き・対応の違い ・当該自治体の外国人児童生徒編入にかかる案内の有無とその内容 2) 外国人児童生徒の編入に際し、児童生徒の情報をどこで、だれが、どのように収集しているかを知る。 ◇当該自治体や教育委員会のウェブサイトを開覧できるように準備する。 2 長年外国人児童生徒等教育・日本語指導を担当してきた教員より、当該地域・学校の児童生徒の支援体制について話を聞き、理解を深める。 例) ・学校内の指導体制（担当者の立場と役割） 日本語指導担当教員、学級担任、管理職、その他 ・日本語指導教室の有無、取り出し指導／入り込み指導 ・外国人児童生徒等教育に関する研究会・研修システムの有無 ・教育委員会等による通訳、日本語指導員派遣 ・学校と教育委員会とのかかわり ・学校と地域の支援者との関わり、保護者と地域支援者との関わり ◇経験者に、各学校の体制に関する資料の準備を依頼しておく。 3 学校における受け入れの流れを確認、把握すべき情報とその共有の仕方を検討する。 1) 学校の受け入れの流れを、例を元に理解する。 2) 保護者との面接時に確認すべき事項を知る。 面接に管理職・日本語指導担当者の他に関連教員も同席 通訳の派遣依頼などの準備の必要性 保護者との連絡の取り方を決定 3) 情報の把握・収集と共有、活用の仕方を知る。 どの情報を次のどの範囲で共有するかを検討する。 管理職、担任、日本語指導・外国人児童生徒担当教員、日本語指導員・母語支援員等教育委員会派遣支援員、養護・栄養教員 4) 校内の支援体制を作ることや、地域の支援者とネットワークをもつことの重要性について知る。 ◇未経験者や経験の浅い者と長い者とのバランスを見て、グループをつくる。

4. まとめる。(5分)	ワークシートなどで体制を図式化するなどして捉えやすくする。 4. 授業を振り返り、地域や学校の状況による違いを理解し、それに応じた体制をつくり、教育・支援を行うことの重要性を確認する。。
備考	・短時間で実施する場合は、2については自治体等で行われている支援について確認するにとどめ(受講者に質問を投げかけ全員で共有するなど)、3の面接にかかる留意事項を中心的に取り上げる。